

第 31 回 100 年史誌部会 議事録

日時: 2008 年 11 月 5 日(水) 16 時 10 分～17 時 10 分

場所: 管理棟 2 階 第一応接室

出席者: 横山部会長、松田、神戸、大町、小池、高畑、片山、山崎、鈴木(清)、小室編集局員、斎藤編集補助員、細谷(ぎょうせい)、村田(ぎょうせい)、中安(ぎょうせい)、柳田(ぎょうせい)

欠席者: 小山、栗野、奥山、金子各委員、

【配布資料】

[資料 31-1] 米沢高等工業学校の誕生と存亡の危機

[資料 31-2] 百年史(通史)の進め方について

[資料 31-3] 山大工学部 100 周年記念誌ジャーナル製作スケジュール(20.11.5)

[資料 31-4] ●「四つの象限と工学的風土論」構成案(p10～p27)

[資料 31-5] 山形大学工学部百周年記念誌 パトリアの学府

[資料 31-6] (1) 100 周年記念誌(Journal)第 31 回部会議題

[資料 31-6] (2) キーワード・コンセプト(共通講座 小池)

I) 連絡事項

1. 次回(12 月)の「今月の話題」は栗野委員が担当する旨、小室編集局員から報告があった。

2. 新メンバーの紹介

(1) 以下のメンバーの紹介があった。

- ・ 赤平委員に替わり事務ユニットから鈴木清一(企画調整役)委員。
- ・ (株)ぎょうせい スタッフ 細谷氏 (スケジュール管理、予算管理)
- ・ 同制作スタッフ 村田久氏 (全体編集)
- ・ 同制作スタッフ 中安 直樹 氏 (全体編集、デザイン)
- ・ 同制作スタッフ 柳田 氏 (写真撮影)

II) 協議事項

2. 百年史

(1) 資料 31-1「米沢高等工業学校の誕生と存亡の危機」に基づき、小室編集局員から説明があった。ポイントとして、今までの 50 年史ならびに 80 年史の記述において、地元米沢や米沢の人々に関する記述が希薄であることから、特に創立当初の平田東助氏をはじめとする米沢の人々の関わり合いについて調査した。

(2) 資料 31-2「百年史(通史)の進め方について」に基づき、小室編集局員から百年史の作成に関して 1.現況、2.進め方、3.日程に関して説明があった。

- ・ 部局史は各部会員が、通史と本論に関しては部会員・編集局員が世話人として担当する。

現在の案として以下の通り

- ・ 第 5 章「大学院の設置」は大町委員、第 6 章「学部の拡充」は金子委員、第 7 章「大学紛争と大学改革」は松田委員、第 8 章「工業短期大学の改組」は小山委員、第 9 章「工学研究科及び理工学研究科の発足」は大町委員担当で渡辺克巳先生が執筆する。第 11 章「国立大学封じん山形大学」は栗野委員が担当。第 12 章「大学の将来計画と創立百周年記念事業」は高畑委員が担当する。まずは、依頼を含めた世話人担当者について検討を行なう。
- ・ 文字数に大枠で目標を定める。
- ・ 必要な資料の閲覧など要望があったら小室編集局員に問いあわせる。
- ・ 最初に執筆依頼者の内諾を取ることで進める。

3. 100 周年記念誌

(1) 記念誌の進捗状況と今後の予定

i. 資料 31-3、資料 31-5 に基づき細谷氏から説明があった。

- ・ 資料 31-3 に記載されている「●四つの証言と工学的風土論」、「●百年の年代記」、「●百人の声」、「●キーワード・コンセプト」について進めている。
- ・ 「● 四つの象限と工学的風土論」に関して、撮影場所の調査・下見(ロケハン:ロケーション・

- ハンティング)を行なった。今後、写真撮影、取材、執筆を開始し、21年2月までに写真撮影と執筆を終える。
- ・「● 百年の年代記」に関して、歴史の沿革的部分を中心に資料の収集、あらすじの作成を行なっている。
 - ・「● 百人の声」に関して、12月に先行寄稿分の原稿整理を行なう。
 - ・「● キーワード・コンセプト」に関して平成21年3月下旬まで原稿の整理ならびに写真の撮影を行なう。
- ii. 資料31-4に基づき、村田氏から「四つの象限と工学的風土論」に関して説明があった。
- ・百年史誌部会から提示された構成案にあった「米沢の風土と工学部」をもとに提案した企画案である。しかし、一般世間で言われる風土記のようなものではなく、工学部の趣旨に基づくとすることで、この四つの象限を「工学的風土論」として提案した。
 - ・象限Aに鷹山は欠かせない。鷹山と工学部を無理なくリンクさせる。
 - ・象限A・写真候補8番・芳泉町のウコギの写真は春先に撮影する。
 - ・象限A・写真候補11番、12番は「山大工学部と地域貢献」に関連して撮影したい。
 - ・象限C・写真候補12番は「山大工学部と地域貢献」に関連して撮影したい。
 - ・象限D・写真候補11番、12番は「工農連携」に関連して撮影したい。
 - ・観光雑誌にならないように、100年の重みを重視して紙面展開したい。
- iii. 以上の説明に対し、以下の質問とコメントが出された。
- ・象限Bのタイトルが資料31-5のものとは異なるとの指摘が小池委員からあり、今回提示した「米織がもたらした研究風土」が新しいものであると村田氏から回答があった。
 - ・象限D・写真候補10番は山形大学産業研究所であり、場所も現在は工学部内にある。
- iv. 「ぎょうせい」から、今回は米織関係の写真を資料館で撮影したが、他の良い撮影場所に関する情報提供の要請があり、部会員から以下の情報提供があった。
- ・ 野々花染工房(有)
 - ・ 白根沢合資会社 -織物工場で市一番古いだらう-
 - ・ (株)新田 ベニバナに特化し、それで事業展開している。
 - ・ 織物デザイナーの商品として、ニューヨーク近代美術館の MoMA Store で扱っている。
- (2) 「百人の声」先行執筆依頼先の報告 その2
- ・ 生体センシング機能工学(神戸委員)：赤塚先生に依頼状を発送した。
 - ・ 機械システム工学(大町委員)：本田さんには未依頼。
 - ・ 共通講座(小池委員)：菅野先生、大坪先生に依頼する。近日中に依頼状を発送予定。
 - ・ 事務部(片山委員)：青木さんに依頼予定。
 - ・ 物質化学工学(高畑委員)：神田先生は辞退。代役にOBで神田先生と同期の高橋良之氏。
- (3) 記念誌掲載用写真の撮影募集の件
- ・ 当分学外の史跡などの撮影を進める。
 - ・ キーワード コンセプト に掲載する写真を撮影する。
 - ・ 現代山大工学部事情 に掲載する写真を撮影する
 - ・ キーワード・コンセプトには40-50枚程度の写真が掲載可能
- (4) 資料31-6(2)に基づき共通講座のキーワード・コンセプトを小池委員が説明した。
- ・ 共通講座 工学教育改善など教育を中心とした、
- (5) その他
- ・ 本館の写真アルバムのリストアップを引き続き進めるよう要請があった。但し、リストアップにはアルバム中の写真1枚1枚に関する説明は必要無い。

III) 次回の会議について

- (1) 次回は12月2日(火)16時10分から、管理棟2階 第一応接室

2008年12月2日(高畑)